

# 祖山學院雜報

武 田 生

一、祖山學院教授永倉唯嘉先生は今春文部省専門學務局教務課へ榮轉された。

一、祖山學院の先生であつた早田龍心先生は此度九州帝大へ癩の無鹽療法に關する論文を提出し、醫學博士を授與された。

一、今年學院卒業生と在學生の前途に光明を與へる人事課が祖山學院内に設置されたから、住職や執事所望の方はどしどし申込みたい。

一、本院卒業生にして大講論文を提出せんとする者は、論文とその書留送料と、審査料金拾圓とその書留料を學院宛お送り下さい。學院では論文と依頼狀を宗務院へ、審査料を立正大學會計部へ學院の名で發送する。そのうち諸君の手へ論文パスの通知が宗務院からとゞくであらう。

一、卒業、在學、成績等の證明書請求者は手數料金五拾錢と送料貳錢をお送りさい。

# 校 友 會 報

二八八

誠に身延山の栖は、千早振る神もめぐみを垂れ天降りましますらん―哀れを催す秋の暮れには、草の庵に露深く、軒にすだくさゝがにの糸珠を貫き、峰の紅葉いつしか色深ふして、絶へ／＼につたふ懸樋の水に影をうつせば、なにしほう龍田川の水上もかくやと疑はれぬ。

（身延山御書）

と、示された秋の身延、散り敷く木の葉に朝な朝な霜白くなり、七面山の巔の白くなるのも遠き事ではあるまい、澤庵大根の乾されるのも近きことだらう。

心なき風に、一葉また一葉吹き落されて、枝もたわゝに、クツキリと黄金色の柿の實に、惡童が、百舌鳥がうるさくもつきまたふて居る。

祖廟中心、祖廟に集れ、祖廟を守れ、と聲は大であり、又誰しも反對し得ぬ事柄だけに、ヂリヂリ、引き摺られては居るが事實は是と反したる運動、柿の實に寄り付く惡童の類が無ければいゝがと心配になる。

祖廟中心でなければならぬことは已に嚴然たる事實であり、宗門一致の聲であるべき筈だが未だ一部には、祖廟中心といふ事は宗是ではない、なんていふ學者先生もある世の中だ、愚に